



「朝日連峰某沢

学術調査報告書」

釣行日 2023.9.22～24

参加者 坂井希、小鷹哲、齊藤敦

レポート 坂井希

仕事や自宅の引っ越しなどで忙しく、今年は殆ど釣りに行けていなかった私もシーズン最終盤恒例の朝日某沢の釣行には否が応でも参加せねば！と東京から車で6時間かけていつもの集合場所に向かった。

1日目

前日夜の間激しく降っていた雨も上がり期待が膨らむ。

この沢は上流と下流両方に魅力的な定宿があり、あーだ、こーだ、いや下も捨てがたいと議論の結果、小鷹さんの「今回は上流で学術調査だ！」の一言で決定。

去年は同沢の下流域に行ったのだが、昨年夏の台風の影響で淵は土砂で埋まり、魚の数も減ってしまっていたが、果たして今年はどうなることやら・・・。

2泊3日にはしては少し多いんじゃない？という食糧、酒をこれでもかとパッキング。

「坂井君、若いんだからまだ大丈夫だよな」とさらにタープも追加されたパンパンのザックを背負い、最初の急登にしがみつく。

ここからはピークまでは暫く登り、ブナの大木の原生林を眺め、時にはキノコ目になって予定より、少し？大きく？遅れてピークに到着。

壮大なスケールの朝日の山並みを眺めながら大休止。ここまで来れば後は下るのみ、急ぐ必要もなし、のんびり行って昼前に着けば十分。



▲人間の手が入っていないブナ林を歩くのはとても気持ちが良い

▲ヒラタケを発見！ありがたくいただく。油炒めか、味噌汁か。

登りが終わり、これから向かう沢の様子を伺うベテランの二人。
その姿はさながら『七人の侍』の風格である。率直に言って超格好良い。



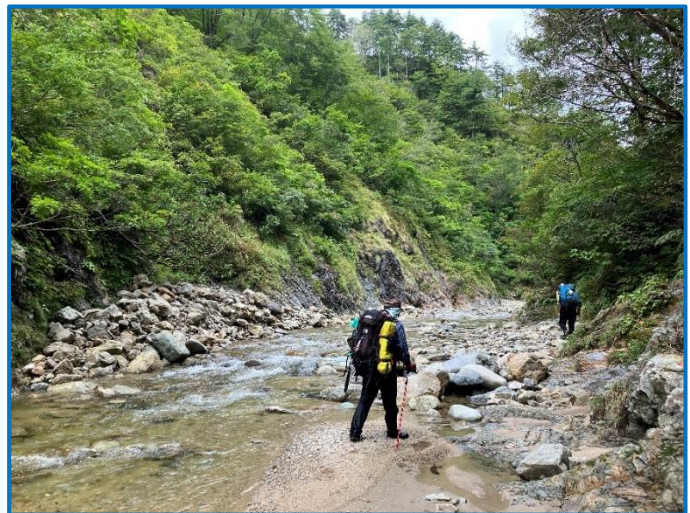
ここからはひたすら下りの連続。

場所によっては後ろ向きで降りるほどの急斜面で掴んだ木が折れたら転げ落ちて行きそう。

最後の難所を頼りない枝につかまりながらやっとの思いで沢に降り立つと想像していたほどは
溪相は変わっていない様子。まずは一安心。

これは期待出来る！と思って沢を登ってテン場を目指すのが、少し様子が変わる。

目印になっていた大岩が無くなり、深くて遡行ルートではなかった箇所も普通に登って行ける。
と、出てきたのがこのがけ崩れ。



山が丸ごと頂上から崩壊し、斜面に生えていた草木も根こそぎ無くなり、丸裸の山肌が見えている。

これだけの土砂が流れれば沢も埋まってしまうのも必然。

自然の脅威を目の当たりにした感じだ。土砂崩れに巻き込まれて多くの魚や動物も犠牲になったことだろうか。

いつものテン場に着くと上流側が水で洗われ削られている。

「え～ここまで水が上がったの？」と驚き。幸い 3 人なら十分快適に過ごせそう。重いザックを降ろし、薪集めにかかるが、いつもは沢山あるはずの流木が、大水の影響か流れが変わり、周囲には殆ど見当たらない。

野営の楽しいイベントの焚火が盛大でなければ楽しさも半減。少し上流で新規のテン場を開拓することに。

齊藤さんが以前目星を付けていた場所が、砂地の快適な場所で薪も 2 晩では使い切れないほど。川原宴会のスペースも快適で言うことなし。ここを NEW テン場とし、まずはビールで乾杯。この瞬間も源流釣行で堪らないポイントの 1 つであることは多くの方が同意してくれるだろう。



▲この笑顔！当然今回も最高です！

手早く設営と薪拾いを済ませ、私は少し上までということで様子見で釣りに行かせてもらった。最後のポイントでどうにか 28cm のイワナを 1 匹拝めたが、私の実力を差し引いても 2 年前より確実に魚が減っている・・・。

テン場に戻り、齊藤さん特性源流ご飯を食べ、1 日目は早めに就寝となった。



▲焼きそばと生姜焼き。渓遊会のご飯はいつも美味しい。

2 日目

晴天(抜けるような青空と白い雲のコントラストがなんとも)。



さあ、今日は楽しみにしていたメインの釣り三昧。天気も最高。



朝食をモリモリ食べて小鷹さんが言うところの「学術調査」に出発！

しかし、本流でも所々竿を出すのだが、どう言う訳か反応無し。というか沢を歩いていても魚が走らない・・・！

昨日 1 匹を上げた場所では流石に魚影はあるもののアタリ無し。

ここは後ろ髪を引かれつつも、あきらめて上流へ。



▲悪場はスリングを連結して。



▲滝の岩の僅かな隙間に咲く可憐なリンドウ。

目的場所まではまだ長いので大場所のみ竿を出して行くが、相変わらず魚影は確認できないまま更に進んでここで一旦、早めのお昼休憩。

朝炊いておいたご飯と水の滴り落ちる斜面に生えていたミズを一掴みいただいて具に。
ラーメンの中のミズの彩りが食欲を一層そそり
汗をかいた体にラーメンのスープが染み渡る。
ミズ・ギョニソ入り特性源流ラーメン、最高！

小鷹・齊藤 両ベテランは「上流には難を逃れた
魚がいるかもしれない」と口を揃える。
そこまでは大水の影響を感じさせない流れを
黙々と進むも中々魚にお目にかかれず「やはり
だめなのか・・・」と思い始めた頃、齊藤さんの竿
が大きくなる！





▲私にも源流の神様は微笑んでくれました

▲30cm 前後のイワナを手になっこり満面の笑みを浮かべる齊藤さん

やった！魚はちゃんと生き残っていたぞ！！この事実が何より嬉しく、3人だけの溪で大はしゃぎである。

そこから交代交代、竿を出しながら進み、私も待望の1匹をゲット！

上流へ行くほど型も良くなり、数年振りの今回の目的地に。

3人各々竿を出すがこの中でも良い型を最初に上げたのは齊藤さんだ！

滝の下に潜むイワナ達を巧みに誘い出す。2～3本釣った後に今回最大の大物がHIT！

魚影が見えた瞬間思わず「でかい！」と叫んでしまった。



水中で暴れまくるイワナ。空気を吸わせてもまるで勢いは収まらない。
滝壺周辺で戦うのは不利と判断した齊藤さんは少し下流に誘い込み、見事キャッチ！
これが百戦錬磨の釣り師の業かと見とれてしまった。
苦労をして来た甲斐がありました！

▲40cm を超える大物を釣り上げご満悦の齊藤さん



小鷹さんも小振りながらも(と言ってもこれも27~28cmはある立派なイワナだ)綺麗な魚体の1匹をキャッチ。
私も負けじと1匹釣り上げ、ここだけで尺上が6本と夢のような源流釣り堀状態。
もうこれ以上は十分とこの日の釣行は終了。
今後のこの沢の回復を祈り、釣れたお魚は全てリリースし、帰路についた。



▲上が私が釣った30cmオーバー。
だが齊藤さんの大物と比べると小魚に見える・・・。

さあ、今夜は最後の夜、焚火宴会を思いっきり楽しもう。
居心地の良い、砂地を座布団代わりに抜群の景色の中、宴会スタート。



▲焚火も最高潮です

そしてこの夜は喜びを噛み締めながら美味しい酒と料理を堪能し就寝となるが、昼間の興奮と翌日帰る寂しさから眠りにつけそうに無かった私は焚き火を見ながら満点の星空を眺め、暫しの1人の時間を楽しんで眠りについた。

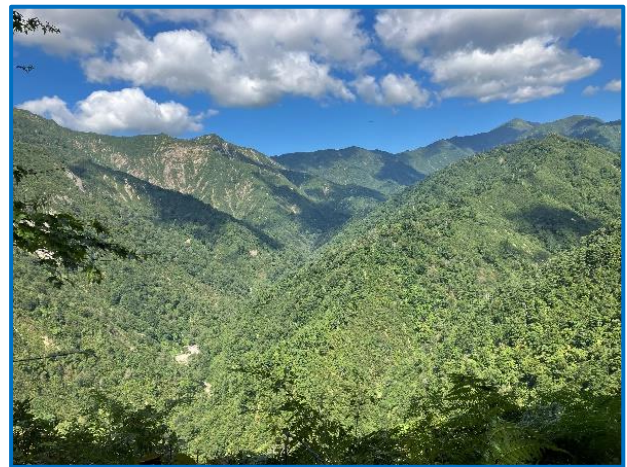
3日目(今日も快晴)

名残惜しいが、楽しい時間はあっという間に過ぎ、帰り支度をする。
今日も豪勢な朝ごはんをモリモリ食べ、昼飯用の弁当をこさえてお世話になったテン場を後にした。



来年も絶対来るから待っててくれよな！
こうして私の最高の3日間は無事終わったのであった。
今回も最高の釣行をありがとうございました！
齊藤さん・小鷹さん、是非また一緒にさせて下さい！！

学術調査報告:この沢は生きていました！



▲乗越す直前、溪が見える最後のスポットからの1枚。